



プレスリリース

平成 15 年 12 月 24 日

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-8-1
Tel 03-3243-5000(代表) Fax 03-3271-0267

アナリスト・ファンドマネージャー56人のアンケート

「社会的責任投資（SRI）の日本企業への影響」の調査結果から

● **社会的責任投資（SRI）の認知度 94%に上昇**

バイサイドアナリスト（100%）、ファンドマネージャー（100%）、セルサイドアナリスト（96%）の順
前回調査（2003年1月）の76.4%から18.2ポイント上昇し、94.6%に

● **企業の社会的責任（CSR）も 85%の高い認知**

バイサイドアナリスト（100%）、ファンドマネージャー（80%）、セルサイドアナリスト（80%）の順

● **SRI がレポート作成や投資銘柄選択に影響する、全体の 32%**

バイサイドアナリスト（60.0%）、ファンドマネージャー（46.6%）の順

企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)への取組みを投資基準にする社会的責任投資(SRI:Socially Responsible Investment)が注目されています。SRIファンドは現在、日本国内に9種類あり、純資産額は2003年9月末日現在で約720億円です。日本でも今後の成長が見込まれています。

大和証券グループのIR(投資家向け広報)コンサルティング会社である大和インベスター・リレーションズ株式会社(社長・宮田長吉)は、米国で2001年末の総資産運用残高が約300兆円に達した「SRIの日本企業への影響」について、2003年10月23日～11月11日、日本国内の主要な日系・外資系証券会社調査部門及び機関投資家56名(ファンドマネージャー15名、バイサイドアナリスト10名、セルサイドアナリスト25名、その他6名)からアンケートの回答を得ました。なお、前回と同じ質問項目に一部追加してアンケート調査を実施しました。前回(2003年1月16日)に続いて2回目の調査です。

今回の調査概要は以下のとおりです。

- SRIについては、「よく知っている」「知っている」を合計すると94.6%。
前回調査から約1年で、認知度が76.4%から18.2ポイント上昇。バイサイドアナリスト100%、ファンドマネージャー100%、セルサイドアナリスト96.0%の順に認知度が高い。
- CSRについても「よく知っている」「知っている」を合計すると、85.7%と認知度は高まっている。
- SRIの中で一番関心の高い項目は、ガバナンス、アカウンタビリティ(法令順守、情報開示等)。
- SRIの考え方の中で、一番分かりにくい、なじみにくいのは、「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」。
- SRIが及ぼす、レポート作成や投資銘柄選択への影響について、全体の32.2%が「影響している」と答えている。バイサイドアナリストの60.0%、ファンドマネージャーの46.6%、セルサイドアナリストは20.0%が影響ありと回答。ファンドマネージャーの運用銘柄選択や株式売買、アナリストの株価付け、カバレッジ等に影響が出ている。

- ・SRIインデックスは、認知の途中段階。全体でトップの「DJSI」の認知度が 24.5%。
- ・SRIの判断材料として重視するのは「取材、インタビュー」が 61.7%、「環境報告書」59.6%、「事業報告書」25.5%、「インターネットホームページ」23.4%。
- ・日本でのSRIについて、全体の 60.7%が普及すると回答。普及しないは 37.5%。
- ・国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) についての認知度は 17.9%、10月20日～21日に開催した東京会議の認知度は 12.5%であった。

大和 IR は、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあつて、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。

大和 IR では、企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

以 上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
業務推進部長・米山徹幸 同次長・石橋卓磨
T e l 03-3243-5000 F a x 03-3271-0267

1 社会的責任投資(SRI)の認知度

- ① SRIの認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて94.6%と、昨年の調査の76.4%から18.2ポイントの上昇となり、急速に認知が広がっている。
- ② 職種別では、バイサイドアナリストが「よく知っている」60.0%、「知っている」40%、ファンドマネージャーが「よく知っている」33.3%、「知っている」66.7%、セルサイドアナリストは「よく知っている」4.0%、「知っている」92.0%となった。バイサイドとセルサイドでSRIの認知度に差が出ている。

2 企業の社会的責任(CSR)の認知度

- ③ CSRの認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて85.7%と、関心の高さをうかがわせた。
- ④ 職種別では、バイサイドアナリストが「よく知っている」50.0%、「知っている」50.0%の合計100.0%、ファンドマネージャーが「よく知っている」33.3%、「知っている」46.7%の合計80.0%、セルサイドアナリストは「よく知っている」0.0%、「知っている」80.0%、と認知度に差が出ている。

3 関心の高いSRI項目(複数回答)

代表的なSRIの5項目についてどれに関心があるかたずねた。

- ①全体で1位は「ガバナンス、アカウントビリティ(法令順守、情報開示等)」が74.5%(前回67.7%)、2位は「環境(環境リスクの低減、環境汚染物質対策等)」が72.7%(同52.8%)と急進、3位は「マーケット(消費者対応、取引先対応、顧客満足、調達方針等)」が50.9%(同51.2%)、続いて「社会貢献(地域社会への貢献、NGOとの協働等)」25.5%(同30.7%)、「雇用(雇用関係、人材育成、基本的人権の保護等)」16.4%(同20.5%)となった。
- ②職種別でみると、ファンドマネージャーは、1位「ガバナンス、アカウントビリティ」93.3%(前回64.7%)、2位「環境」66.7%(同67.6%)、3位「マーケット」46.7%(同50.0%)、以下「社会貢献」26.7%(同52.9%)、「雇用」13.3%(同29.4%)と続く。
- ③バイサイドアナリストは、1位「ガバナンス、アカウントビリティ」70.0%(前回80.0%)、2位「マーケット」60.0%(同63.3%)、2位「環境」60.0%(同50.0%)、以下「社会貢献」50.0%(同13.3%)、「雇用」20.0%(同20.0%)、と全般的に関心が高い。
- ④セルサイドアナリストは、1位「環境」83.3%(前回42.0%)が急上昇、2位「ガバナンス、アカウントビリティ」66.7%(同62.0%)、3位「マーケット」50.0%(同46.0%)、以下「雇用」16.7%(同20.0%)、「社会貢献」12.5%(同22.0%)と環境に対する関心が一番高くなっている。

4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目

- ①全体で1位は「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」が52.1%(前回29.9%)、2位は「グローバルなオペレーションをカバーする」35.4%(同23.6%)、以下「コンプライアンスを超えた取組みを求める」31.3%(同33.9%)、「子会社・関連会社の業務を本社で掌握する」18.8%(同20.5%)、「その他」4.2%(同4.7%)となった。
- ②職種別でみると、ファンドマネージャーは、1位「雇用」61.5%(同29.4%)、2位「コンプライアンス」23.1%(同35.3%)、以下「グローバルなオペレーション」15.4%(同26.5%)、「子会社」15.4%(同18.2%)と続く。

③バイサイドアナリストは1位「雇用」「コンプライアンス」(各々60.0%)、セルサイドアナリストは、1位「雇用」「グローバルなオペレーション」(各々42.1%)となった。わかりにくい項目として、「環境対策と企業収益の関係(日系ファンドマネージャー)」とのコメントがあった。

5 SRIの考え方が、業務に影響を及ぼしているか

①全体で、「かなり影響している」が前回3.9%から5.4%に上昇、「影響している」は同33.1%から26.8%、両方を合計した32.2%(前回37.0%)が業務になんらかの影響がでていると回答している。「影響はない」は同33.9%から41.1%、「わからない」は同24.4%から25.0%だった。

②職種別でみると、ファンドマネージャーは、「かなり影響している」13.3%(同8.8%)、「影響している」33.3%(同41.2%)を合わせると46.6%(同50.0%)が「影響がある」と回答している。

③バイサイドアナリストは、前回ゼロだった「かなり影響している」が10.0%、「影響している」50.0%(同43.3%)、「影響はない」40.0%(同26.7%)、「わからない」は0.0%(同23.3%)とファンドマネージャーに比べて影響度は高くなっている。

④セルサイドアナリストは、「影響している」20.0%(同24.0%)、「影響はない」40.0%と前回と変わらず、「わからない」36.0%(同30.0%)と職種の中では前回調査と同様、一番影響度が低い。

6 5で影響が出ていると回答したアナリスト11名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)「株価付け」54.5%、「カバレッジ」27.3%、「その他」27.3%。前回調査と比較すると、ほぼ同じ結果となった。「種々の銘柄判断要因(日系アナリスト)」に影響を与えているとのコメントがあった。

7 5で影響が出ていると回答したファンドマネージャー7名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)

「ユニバース(投資銘柄選択)」85.7%、「株式売買」57.1%、「その他」0.0%。前回調査と比較すると、ユニバースの影響が大きくなっている。

8 SRIインデックスのうち、どれをご存知ですか(複数回答)

①全般的に認知度は低い。全体で「DJSI」24.5%、「MS-SRI」22.6%、「FTSE4Good」17.0%、「Domini」17.0%、「Ethibel Sustainability Index」7.5%の順。

②職種別でみると、バイサイドアナリストは「Domini」20.0%を除く4つが30.0%で並んでいる。ファンドマネージャーの「DJSI」30.8%、セルサイドアナリストの「MS-SRI」25.0%が目立つ程度。

9 注目しているSRIインデックス(複数回答)

①全体で「わからない」が76.6%と圧倒的に多い。後は高い順に、「MS-SRI」12.8%、「DJSI」10.6%、以下は10%割れと全般的に注目度は低い。

②職種別でみると、「わからない」がファンドマネージャー、バイサイドアナリスト、セルサイドアナリストともそれぞれ70.0%、71.4%、79.2%でトップ。低水準ながら、バイサイドアナリストが「MS-SRI」28.6%と注目しているのが目立つ。

「インデックスそのものには注目していない(日系アナリスト:電力、ガス、石油元売、建設、鉱業)」とのコメントもあった。

10 インデックスの構成銘柄の認知度

- ①全体で「知らない」が 73.2%と圧倒的に多い。「よく知っている」1.8%、「知っている」21.4%とインデックスの構成銘柄に対する認知はこれから進むと思われる。
- ②職種別でみると、「よく知っている」「知っている」を合計すると、バイサイドアナリスト40.0%、ファンドマネージャー26.7%、セルサイドアナリスト 20.0%。

11 SRI の判断材料として重視するもの(複数回答)

- ①全体では、1位「取材、インタビュー」が 61.7%(前回 55.1%)、2位「環境報告書」が 59.6%(同 32.3%)、「事業報告書」25.5%(同 26.0%)、「インターネットホームページ」23.4%(同 11.8%)、「サステナビリティレポート」17.0%(同 7.1%)、「各種インデックス」4.3%(同 7.9%)となった。
- ②実際の取材、インタビューを重視するものの、最近ポピュラーになった環境報告書、伝統的な事業報告書を重視する姿勢が読み取れる。サステナビリティレポート(持続可能性報告書)は前回の 7.1%から 17.0%に増えており、普及する兆しが見られる。
- ③その他の判断材料として「外部機関評価(日系ファンドマネージャー)」、「第三者の判断(日系ファンドマネージャー)」とのコメントがあった。

12 日本で SRI が普及するかどうかについて質問

- ①全体では、「はい(普及する)」が 60.7%と前回 55.9%から 4.8 ポイント上昇、「いいえ(普及しない)」が 37.5%(前回 36.2%)、「未回答」1.8%(同 7.9%)となった。セルサイドアナリスト、バイサイドアナリスト、ファンドマネージャーとも「はい」が過半数を上回っている。
- ②コメントによると、「はい」と回答した日系アナリストは、「環境問題が注目される中で、個人投資家の関心が高まる可能性が考えられる」としており、時間はかかるもののSRIが普及するという意見が過半数を占めた。
- ③「いいえ」との回答には、「ゼロからのスタートであり、物珍しさも手伝ってある程度までにはなると思うが、そもそもキリスト教的(＝一神教的)倫理観を背景として生まれてきた考えに、八百万の神の国のマインドにはなじまない(日系アナリスト)」や「USでは一時の盛り上がりは薄れているときいたことがあります。結局パフォーマンスが全てという風潮は日本では強いと思います。(日系ファンドマネージャー)」などのコメントがあった。
- ④SRIは、総合的には普及するものの時間がかかるという見方は前回調査と変わっていない。

13 国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEPFI)の認知度

1992年にブラジル・リオデジャネイロで開いた地球サミット(国連環境開発会議)を機に、世界の金融機関が環境保全に貢献しようと発足した国際組織である、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEPFI)についての認知度は、全体で「知っている」が 17.9%となっている。職種別では、バイサイドアナリストが 40.0%と高い。

14 UNEPFIの東京会議(10/20～21)の開催について

UNEPFIが 10/20～21 東京で開いた会議については、全体で「知っている」が 12.5%となった。